

## 「2018 年 サローネ国際バスルーム見本市」概要

今回の「サローネ国際バスルーム見本市」にテーマを付けるとしたら最もふさわしいのは間違いなく「La forma dell'acqua – The Shape of Water」でしょう。2018 年のオスカー4冠、2017 年ヴェネツィア映画祭金獅子賞を獲得したギレルモ・デル・トロ監督の映画にちなんでタイムリーな標語だというだけでなく、今日のバスルーム空間のプロジェクトの多くが「水の形を視覚化する」という秘めた欲望をかつてないほどに抱いているように思われるからです。「バスルームはもはや必要なことを済ませるだけの空間ではなく、他の部屋と同等に扱われべき一つの部屋なのだ」というフレーズは言い古されたもののように響くとしても、革新的なのは、価値の再考の提案という昨今のトレンドです。その中でも特に、水の価値、水と体の関係の価値についてです。人間工学的な原理は、従来からバスルーム空間関係の仕事にとって基本的に必要な原則だったのですが、もちろんこの点に議論の余地はありませんが、この原理に、より隠密な配慮が加わり、実際、多くの製品は形状を変化させる水の流れをデジタル化・視覚化する方向性に動いています。この意味で、高度な実験的レベルで **Ghigos** が **Olympia Ceramiche** とのコラボで製造する工業セラミック用の 3D プリンターの活用を引用したいと思います。これは、SF チックな見た目なのに実際に使える洗面台の製造を可能にします。この「エモーショナルな」アプローチの代替としてよく見られるのは、特に洗面台に関してですが、従来のサニタリー用セラミックの伝統から切り離された、装飾用の花瓶に典型的な形などを導入した装飾アートの製品です。例えば **Roberto e Ludovica Palomba** の **Kartell by Laufen** や、**Marcel Wanders** の **Laufen** 製品などがこれに当たります。詩的な要素を加えられたこの分野は興味を引くものですが、しかし一方では全くの対をなす製品も見られます。最も重要なものが「身障者にも適した製品」の提案で、個々人の困難を克服する機能を持たせる一方で、メーカーは一般向け製品との違いをさりげなく目立たないものにする努力をしています。バスルーム製品にはこのような細かな工夫が施され、どんな使い方も楽にできるように考えられています (**Diego Cesi/Archiplan** デザインの **Ever** 製防水製品“Roll”)。**Ponte Giulio** も **Daniele Trebbi** とのコラボレーションで安全をテーマに“Hug Life Caring”コレクションを発表してい

ます。現在優勢となっている有機的なスタイルに対して、もう一つ相対するのは主に幾何学的なプロジェクトである *starting point* に関するものです。これはバスルーム設計の「モダンな」伝統に関わるものですが、今年は特にサイズという観点から革新的なものが見られます。この意味で注目なのは、**Métrica** が企画し **Falper** が提案する“Pure”シリーズと“Quattro.Zero”シリーズで、充実した様々な形状の商品を発表しています。

「サローネ国際バスルーム見本市」で発表される多種多様な製品について概観的に分析していくと、上記のような特徴は、特にサニタリーデザインに関連するということがわかります。サニタリーというのは、我々が知るように極めて専門的な製品だからです。よって、家具のデザインから派生するトレンドに対して独自性を持っていると言えます。しかし「バスルーム分野とリビング空間とを統合するいくつかの要素」も存在します。大型のドレッサーに組み込まれた洗面台などは、洗面台が大きな場所を占め、鏡は補助的なもの、という従来の関係性を逆転させるものであり(若手デザイナーユニット **MUT** の **EX.T** 製品)、あるいは、本格的な家具にビルトインされた、開け閉めできる家具のような洗面台もあります(**Marco Zito** デザインの **Arlex** 製“Lay”)。同様の線上に、サウナの扉部分が本棚にもなるというようなもの(**Effegi** の提案する **Marco William Fagioli** デザインの“Yoku”) や、予測もしなかった、本体側面が布地で包まれたサニタリー家具(洗面台や浴槽)なども出現しています(**Dominik Tesseraux** デザインの **Bette** 社が発表する“Oval couture”シリーズ)。

このような独自性を指摘しつつも、今回の「サローネ国際バスルーム見本市」では、家具部門で指摘した傾向と共通点を持つ商品も様々に提案されているということを認識する必要があります。特に「壁面・床」は、家の内装全般との高い類似性を示しており、最近の主流は「ノスタルジー」です。「*marmette*: 寄木風に組み合わせた大理石床材」、つまり、第一次・第二次大戦の間の時期に生まれた、大理石の小片を合わせてデザインを繰り返す手法の床材や「*palladiana*: パッラーディオ風の床」に似た技術が復活した床(注・大理石の小片を石畳風に組み合わせたもの)もノスタルジックなものとして人気が出てきています(**Florima** による **Casamood** の“Artwork”シリーズ)。ポルトガル発祥の伝統的なタイル・アズレージョや他

の伝統的な図象的な床材からインスピレーションを得た陶器の床材などもありますが、これらは地理的に特定のエリアだけに典型的なものであるという理由から、このような地域限定型の伝統から着想を得た陶器の床材よりも、「marmette」や「palladiana」の人気が高いようです。ノスタルジックという意味では、琺瑯びきの砂岩 (grès porcellanato) もますます普及しており、また機能性を進化させています。この床材は、「木調」(**Fiadre** は「化石化した木調」という提案をしています)、「大理石調」、また「オニキス調」(**Ariostea** からは 300x150cm のサイズの、**FMG** からは 6mm という極薄のものを提案) など、他の材質風に加工できるものです。「モザイク」もこれまでの正四角形の小片という通常の手法を脱却したものが提案されています (**Friul Mosaic** からは、**Nespoli** と **Novara** の、長細い小片を使った“Element”が登場)。また壁材では、「壁紙」が 2018 年の住居空間における議論の余地のない主人公ともいべきブームを起こしている製品ですが、バスルームにも進出してきています。例えば、**Wall&decò** の *wet system* がこれまでのタイルの独占を切り崩しにかかっています。

次に「水道蛇口」ですが、従来のクロムメッキした材質から距離を置き、アンティークの金、暖かい色合いを持つ銅、なめらかな風合いを出すつや出し加工などの加工製品が提案されてきており増加傾向にあります。“Aboutwater”シリーズはともに重要なメーカーである **Boffi** と **Fantini** の共同開発商品で、現代のデザインの巨匠の一人である **Michael Anastassiades** が初めて蛇口のデザインに参画しました。**Graff** 社からは伝統的な形状から解き放たれ、壁面から長く伸びたアーチを描くように出ている蛇口 (“Luna”)。こうした形状の変化の前提には、水回り製品としての機能性を保証し、構成部品をベストの状態に保つための日進月歩の技術の進化があることは言うまでもありません。**GI-RA** が **Antonio Lupi** のためにデザインしたシャワーヘッド“Azimut”は例えば水と空気がよりうまく混ぜ合わさるように考案された製品です。

2018 年は、「色調」も変化を見せています。この分野では常に白が他の色と組み合わせられるというのが主流でしたが、数年前からカラフルなセラミックが、特に洗面台に提案されたり、ピンクからきつね色までの土の色のグラデーション (**Flaminia** の新作シリーズ“NudaFlat”、



**Roberto e Ludovica Palomba** デザイン)が出現し、今年の注目カラーは、粘土色 (fango)、黒鉛色 (grafite、グラファイト)、ミルクグレー (grigio latte)、雲色 (nuvola)のラインナップです。近年ではまた、カラフルな蛇口というのも回帰傾向にあります。特に白と黒ですが、鮮やかな原色のものもあります。原色カラーの蛇口は 70 年代中盤以降は出回っていませんでした。シャワーゾーンにも色が登場し、金属の構造部だけでなく、透明ガラスにも色が施されたものが出ています (**Vismaravetro** の耐性のあるセラミックインキで黒の装飾が施されたガラス製品)。

「ラジエーター (壁面ビルトイン暖房)」も「サローネ国際バスルーム見本市」の一つの核となる商品ですが、これもまた伝統的なタイプからの離脱が続いています。もはや見えないように設置する要素ではなくなり、ミニマリズム彫刻のようなもの、**Matteo Thun&Antonio Rodriguez** デザインの **Antrax IT** 製“T Tower”のように敢えてインダストリアル調にしたもの、また実在の芸術作品から着想を得た製品などが出てきています。

2018 年 4 月 17 日ミラノ

Salone del Mobile.Milano Japan Press PR

Yuki Yamamoto - [yuki@milanosalone.com](mailto:yuki@milanosalone.com) - [www.milanosalone.com](http://www.milanosalone.com)